

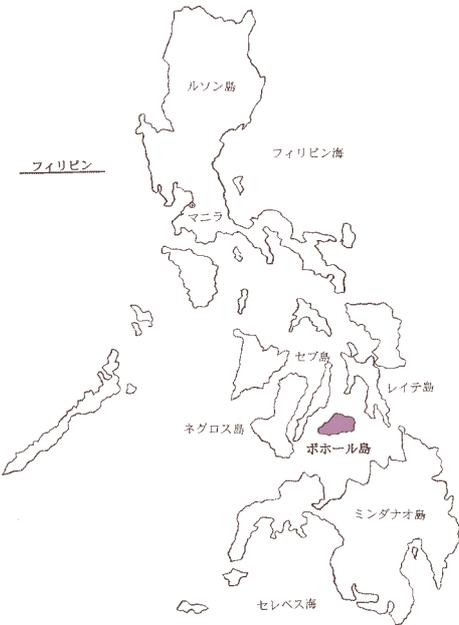
研修員に聞くーお国自慢あれこれ



アドラシオン・T・デラクルズさん
(フィリピン共和国)

Ms. Adracion T. Dela Cruz

フィリピン、ボホール州、ボホール農業振興センター農業官。国際協力事業団北海道国際センター(帯広)「土壌診断環境保全」コース(2001年5月21日～8月18日)で研修。



帯広に来ることは決まりました

JICAの研修員にはフィリピンからの方は多いようだが、この欄には何故か今まで登場いただけていなかった。お国自慢に登場する最初のフィリピン人研修員さんである。

フィリピンの国土面積は約30万平方キロで日本よりふた周りほど小さく7000を超す島々から成っている。人口7千530万人のうちカトリック教徒が80%以上をしめる。公用語はフィリピン語と英語。第二次大戦後の1946年に独立している。

フィリピン南端の大きな島、ミンダナオ島の北、セブ島とレイテ島に挟まれた楕円形の島、ボホール島がデラクルズさん(帯広センターではドリーさんの名で親しまれた)の出身地。

JICAの協力形態の

中にプロジェクトとして実施するものがあり、ボホール統合農業振興プロジェクト(BIAPP)もその一つで、ドリーさんは、そのプロジェクトを担うボホール農業振興センターに農業官として勤務している。

「このプロジェクトの関連での研修なので帯広に行くことは決まっていましたし、これまでに何人もの同僚が来ていますのでいろいろと話に聞いていました」。農作物の生産に不可欠な土壌改良や環境保全を図るための化学分析など土壌診断の手法などを帯広畜産大学や帯広市の施設で研修した。

ボホール島

島の面積は約4千平方キロで、本島と72の島々を持つ。人口はおよそ100万人。気候的には熱帯に属し雨期と乾期に分かれる。ボホール島では、世界の七不思議の一つとも言われる珍しい景色が見られる。「チョコレート・ヒルズ」といい、浸食作用によって形成された、お椀をふせたような丘が広がっている。木は生えていず、乾期になる



チョコレート・ヒルズ



(ボホール州公式ホームページ<http://www.bohol-island.com/>より)

と丘を覆っていた草が枯れてチョコレート色に見えることからこの名前がつけられたようだ。

またボホール島は、3600万年前から生き続けてきたといわれている世界最小級の霊長類、フィリピン・メガネザルが生息していることで有名である。体長は13~4cmで、長い尻尾がある。いくなれば手乗りザルとも言える可愛らしさ。深い山あいに棲み絶滅の危機にある種に指定されている。近年になって自然状態での保護区が設けられた。

いつの日か小説を書きたい

「小さい子供が二人います。そのうえ、働く母親でほとんど自分の時間がありませんが、実は、小説を書きたいのです」ということが、インタビューの後のEメールのやりとりでわかった。ごく幼いころからいわゆる「本の虫」でそれこそ食べるように本を読んだそうである(それも英語で)。メールで書いてきてくれる英語表現の品位や奥深さが納得できた。読書はほんとうに宝だと感じた。

「そうは言ってもただの夢で、具体的なプロットがあるわけでもないのですけれど」と言うが是非実現して欲しい。科学者であり、小説を書く、うらやましい才能であるが、帰国後、職場では管理の仕事も増えて「ものすごく忙しいです」と言ってきた。小説は今少し先のこともかもしれない。笑顔が優しい、話していて楽しい人であった。